





① 調査の概要

- 対象者 鹿屋市在住の満 18 歳以上の市民 2,000 人
- 回収状況 回収数 766 人 回収率 38.3%

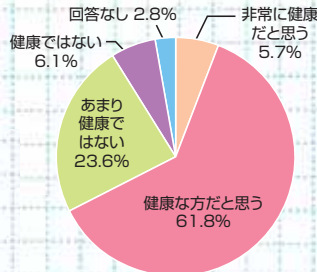
- 調査方法 郵送配布／郵送回収
- 調査時期 平成 27 年 6 月

② 調査結果

健康・体力に不安を抱える人が多く、8 割が運動不足を感じています。今後始めたい運動としては、ヨガ・サイクリング・登山に関心が高いようです。スポーツの秋。市で開催するスポーツフェスタ等に参加し、運動を始めませんか。

Q 健康であると思いますか？

「非常に健康だと思う」、「健康な方だと思う」の合計が 67.5%です。全国的には 87.1%が健康だと感じており、鹿屋市民の「健康感」は少し低いようです。

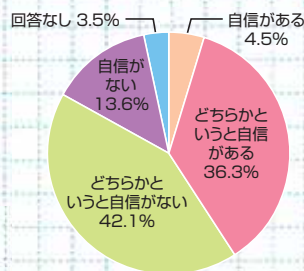


過去 1 年間に実施した運動・スポーツ (上位 10 種目)

ウォーキング(散歩などを含む)	288
グラウンドゴルフ	122
体操(ラジオ体操、3 B 体操など)	99
ゴルフ	61
ボウリング	55
水泳	52
ランニング(ジョギング)	48
ソフトバレー	47
バレーボール	37
バドミントン	31

Q 体力に自信がありますか？

「自信がある」が 4.5%、「どちらかという自信がある」が 36.3%と、およそ 4 割の人が自信があるようです。全国的には 61.8%が体力に自信がありと感じておりますが、鹿屋市民の半数以上はあまり体力に自信がないようです。

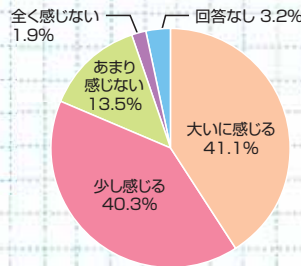


今後実施したい運動・スポーツ (上位 10 種目)

ウォーキング(散歩などを含む)	285
水泳	111
グラウンドゴルフ	104
体操(ラジオ体操、3 B 体操など)	101
ヨガ	90
サイクリング	77
ランニング(ジョギング)	76
バドミントン	70
ゴルフ	69
登山(クライミングを含む)	69

Q 普段、運動不足を感じますか？

「大いに感じる」、「少し感じる」の合計が 81.4%と、8 割以上の人が運動不足を感じています。健康であり、体力にも自信がある人も含め、多くの人が運動不足を感じているようです。



# 鹿児島国体の開催が内定しました！

平成 32 年に開催される鹿児島国体において、鹿屋市では、ボート、バレーボール(成年女子)、自転車(ロードレース)が会場地として内定しました。

なお、鹿屋市では、鹿児島国体に向けて、鹿屋市体育協会加盟の競技団体と一体となって、競技力の向上に取り組んでいます。

「鹿屋市で開催される競技種目」

種目	会場
ボート	大隅湖
バレーボール(成年女子)	串良平和アリーナ
自転車(ロードレース)	鹿屋市、肝付町、錦江町、南大隅町

「平成 27 年度 競技力向上実施団体」

種目	実施方法	主な練習会場
鹿屋市漕艇協会	クラブ方式	大隅湖
鹿屋市カヌー協会	クラブ方式	始良川
鹿屋市ソフトボール協会	クラブ方式	農業研修センターグラウンド
鹿屋市テニス協会	クラブ方式	中央公園テニス場
鹿屋市バレーボール協会	選抜方式	鹿屋中央高校他
鹿屋市バドミントン協会	選抜方式	西原小学校



# 鹿屋市バドミントン協会



鹿屋市はバドミントンのレベルがもとも大変高く、これまでも小・中学生は県大会優勝や、九州大会・全国大会での入賞を果たすなど、優秀な成績を収めています。社会人においても昨年の県民体育大会で優勝するなど、県内でも有数のバドミントン強豪地域となっています。

本年度より中学・高校の運動部やスポーツ少年団に所属する選手の中から優秀選手を選抜して強化指導を行い、平成32年の鹿児島国体において鹿屋市内から県代表選手となる優秀選手を

育成することを目標に、選抜型の強化スクール事業をスタートしました。

過去の個人戦での競技歴などを基準に、現在24人が毎週楽しく、時には厳しく、切磋琢磨して練習に励んでいます。

競技力向上は一朝一夕で成るものではありませんが、鹿児島国体に鹿屋市ゆかりの選手を送り出すことができるように、また鹿屋市のスポーツ振興の一翼を担うことができるように、指導者、選手一丸となって頑張っていきたいと思います！



## 「感謝」

さいごう ひいろ  
西郷 広彩

まつもと ゆうき  
松元 祐輝

(第一鹿屋中学校1年)

強化スクールでは、学校・学年の枠を超えて、コーチの指導の下、厳しく、時には楽しく活動しています。

ここで活動できることへの感謝の気持ちを忘れずに、これからも大好きなバドミントンで活躍できるように、みんなががんばっていきます!!

## 問合せ先

鹿屋市バドミントン協会 担当：西郷

(鹿屋市体育協会内)

電話：0994-43-0719

## Pick up イベント

市民が活躍するスポーツイベントを、厳選して紹介します。



## 鹿児島県地区対抗女子駅伝競走大会

鹿児島県的女子長距離界のレベルアップを図ることを目的に、県内を12地区に分け、中学生・高校生・一般の女性ランナーが襷を繋ぐ鹿児島県地区対抗女子駅伝競走大会。TV中継もあり、注目度の高い同大会は、毎年1月最終日曜日に開催され、早春の霧島路を駆け抜けます。

昨年2年ぶり9回目の大会制覇を果たし、連覇が期待される肝属チームの高木浩之監督に、大会の魅力や肝属チームの特徴についてお話を伺いました。

### ●大会の魅力とは？

県内の女子陸上界は、中学生を頂点に高校・大学・一般と競技者が減少傾向にあるなかで、テレビ中継もあるこの大会を通して、高校生や一般の強いランナーに憧れて、競技を続ける人や長距離を始める人が増えるきっかけになっていると思います。

### ●注目の選手は？

今年のインターハイで2年連続で優勝した倉岡奈々選手をはじめ、日本インカレ女子10000mで2連覇を達成した鹿屋体育大学の鍋島莉奈選手、前川祐紀選手、藤田理恵選手などです。

また、第一鹿屋中学校出身で神村学園駅伝部のメンバーである中島愛華選

手や第33回都道府県対抗女子駅伝競走大会に県選抜として出場した田崎中学校の原田まつり選手と、注目選手が目白押しのチームとなっています。

### ●肝属チームの良さは？

チームには、全国大会で活躍するようなトップランナーが大勢います。

中・高校生がトップランナーである大学生に練習方法や試合での心構えなどを聞き、それを大学生が丁寧に教えるなど、打ち解けやすい環境、縦のつながりがしっかりできているところが魅力です。

### ●今回の目標は？

これだけの選手が集まっているチー

ムですので、昨年の大会新記録の1時間9分49秒の記録を更新するような新記録を打ち立てたいと思います。



▲平成27年1月25日 中島愛華選手





# 鹿屋女子高等学校 ソフトボール部

平成 27 年5月 30 日から6月3日に開催された「第 67 回鹿児島県高等学校女子ソフトボール大会」において3位入賞。部員の半数以上が高校からソフトボールを始めた選手であるなど、決して経験や才能に恵まれた選手ばかりではないなかで、4年続けて県高校総体で3位入賞を果たし、近年は県内でも屈指の強豪校と認められています。3年生が引退し、ゼロからのスタートを切った女子高ソフトボール部。今後どのように飛躍していくのか、注目が高まります。

## チームスローガンは

さんき  
「三氣～氣くばり・元氣・勇氣～」

「気持ちを込めてすべてのことに全力で!」「花よりも花を咲かせる土になれ」が合言葉。ソフトボールを通じて社会で必要とされる人になって欲しいという願いが込められている。



<http://www.satsuma.ne.jp/kanoyajyoshi/bukatu/bukatu-softball.html>

▲少しでも活動を知って欲しいと、ソフトボール部 Web 通信を毎月手作りで更新している。



## Interview



和田 桐璃主将 (第一鹿屋中学校卒業)

2年生5人、1年生8人(内マネージャー1人)の13人でスタートを切った新チームを、全力で引っ張る和田新主将。

### ◆ソフトボールを始めたきっかけは?

中学3年の時に、鹿屋女子高の「部活動体験」で平川先生に声をかけられて、「自分も先輩方のように元気にかっこよくプレーしたい」と思って入部しました。

### ◆最も思い出に残っていることは?

昨年先輩方の最後の試合となった総体の準決勝戦です。本気で全国に行けると思っていただけに、敗れた時の悔しさが今でも頭に焼き付いて忘れられません。

### ◆主将として心がけていることは?

今までとは違う視点でチームを見ることです。自分が率先して行動することはもちろん、チーム全体を見渡しながら的確な指示を出さなければ集団を動かすことはできないことに気付かされました。常にこのことを意識して練習や試合に臨んでいます。

### ◆新チームの目標は?

もちろん「全国制覇」です。練習後も必ず全員で意思統一をしています。先輩方が残してくれた財産を受け継ぎ、今年こそ歴史を変えます。

ひらかわ まさし  
平川 正志監督

末吉中学校、末吉高校、宮崎産業経営大学卒業。平成 21 年から鹿屋女子高校に赴任し、翌 22 年夏からソフトボール部監督に就任。商業科教諭。

### ◆チームを一言で表すと?

「菜の花」。花言葉は「競争」という意味で、お互いが同じ目標「日本一」に

向かって切磋琢磨しながら成長していく姿がピットリだと思っています。ちなみに、本校の校花も「菜の花」です。

### ◆指導者として心がけていることは?

「自ら考え、失敗を恐れずチャレンジさせる」ことです。半数以上が高校からソフトボールを始めた選手ですが、中学校までとは違う競技を自ら選んで入部してきた選手だからこそ、強い覚悟を持って頑張ってくれます。

他競技で培った技術や感覚を大事にしてもらい、ソフトボールに打ち込むことができる環境づくりを重視しています。

### ◆これまでの成績については?

長年、神村学園高等部と鹿児島女子高校の二強時代が続いていましたが、ここ3年間で4回の九州大会出場は、本校ソフトボール部にとっても大きな成果です。

個々の力や経験値は劣っていても、高い意識とハングリー精神を持ってこつこつと努力してきた結果だと思っています。

### ◆今後の目標は?

まだ県大会での優勝がないので、まずは県制覇です。いつも応援して下さる多くの方々に喜んでもらえるようにチーム一丸となって頑張ります。